

夜中には、夏の大きな三角が輝く季節となりました。学校では、いよいよ夏休みが間近です。この夏、いのちのたび博物館では、夏の特別展「恋するいきもの展」が7月15日より開催されます。また、歴史ばけつとミュージアムでは、「白洲灯台150周年」をテーマとした企画展も始まっています。スタッフ一同、皆様のお越しをお待ちしております。

夏の特別展「恋するいきもの展」

【開催期間】令和5年7月15日(土)～9月18日(月)

さまざまな生き物の求愛行動や配偶者をめぐる争いなど、繁殖生態に焦点をあてた特別展です。はく製や標本、巨大模型、生体展示、さらには映像・音声から、生き物たちの「かたち」や「行動」が進化してきた理由をわかりやすく解説します。

つよい！ うつくしい！
 ちょっとヘン！？



見に来てね!!



婚姻色がとても美しいオイカワ



ハクセンシオマネキのオスは、大きなはさみをふって求愛します。

羽根の美しいインドクジャクのオス



オシドリ夫婦といわれますが・・・

■常設展のみ(小・中学生は無料)

	一般	団体
大人	600円	480円
高・大生	360円	280円
小・中生	0円	0円

■特別展のみ

	一般	団体
大人	800円	640円
高・大生	500円	400円
小・中生	400円	320円

■セット券(常設展+特別展)

	一般	団体
大人	1200円	1080円
高・大生	800円	680円
小・中生	400円	320円

※ 団体は30名以上のお一人様料金です。 ※前売り券(個人)があります。

企画展「白洲灯台150周年 岩松助左衛門と白洲灯台」

会期 令和5年7月1日(土)～9月3日(日)
 ※ 常設展入場券で観覧できます
 小倉北区藍島南西の岩礁に建てられた白洲灯台。そこにかかわった人々や歴史的意義を紹介します。

先生、ちょっと聞いて!

ちょこっと博物館
 オンラインゲストティーチャー
 博物館では、2学期より、展示物を普段の授業で活用していただくために、オンラインでのワンポイント利用を始めます。詳細は後日お知らせします。



ミュージアムのタネ

明との貿易はさかんだったんだね



日明貿易と室町文化

室町幕府3代将軍の足利義満は、明(中国)との貿易を推進しました。義満は、明と貿易すれば大きな利益が得られることを博多の商人から聞き、日明貿易を進めたといわれます。実際に日明貿易は、日本から明の皇帝に貢ぎ物(輸出品)を贈り、お返し(輸入品)をもらって帰る、というしくみでした。

日本から輸出されたものとしては、銅や硫黄などの鉱物や、刀剣や漆器などの工芸品が挙げられます。このうち硫黄は火薬の原料になる鉱物ですが、中国ではほとんど採れない一方で、火山大国の日本では大分県、鹿児島県をはじめ各地で採ることができます。北部九州には輸出用の硫黄を保管しておく場所がいくつか指定されており、そのひとつは門司の大通寺というお寺でした(今は存在しません)。

一方の明からは、銅銭や生糸、陶磁器、水墨画などが輸入され、輸入された中国製品は「唐物」と呼ばれ重宝されました。具体的には、書院造りの床の間に飾る掛軸や、生け花に使う花器、茶の湯に使う茶碗などは、唐物が高級品としてもてはやされ、また、良い唐物を持っていることが権力・財力の高さを意味しました。このころ成熟してきた室町時代の文化が、日明貿易と密接に関連していることがわかるかと思えます。市内から出土した銅銭や陶磁器は、博物館に展示しています。



硫黄



銅銭(八幡西区本城出土)



輸入陶磁器(小倉南区長尾出土)



遣明船シアター

さて、博物館には「遣明船シアター」というコーナーがあります。遣明船とは、明へ貿易に行く船のことです。ここでは、船長として実際に明に渡ったこともある、門司五郎左衛門祐盛という武士が日明貿易について紹介してくれます。博物館に来たらぜひ、祐盛さんの話に耳を傾けてみてください。

歴史課学芸員 佐藤 凌成